

定期テストの範囲の重み

今回は学校の定期テストの出し方について文句を言わせてもらいます。

定期テストの場合、テストの範囲表がおよそ一週間前が出るわけですが、学校の先生のなかには、この範囲表の重みを感じていない方がいらっしゃるようです。

範囲表には、単に教科書のページ数だけでなく、出題のポイントや「ここは出しません」という？懇切丁寧な指示が出されています。したがって、中学生はこの範囲表をもとに計画的にしっかり勉強すれば、間違いなく高得点が取れるのです。

ところがこの範囲表、テストの2、3日前に変更になることがあるのです。理由はあるクラスで範囲まで進むことができなかつたからというものです。今回、なんと4教科でありました。

もともと範囲表は、「生徒に1週間前より計画的に勉強してもらおう」ために発表される物であるはずで、それを変更することは「計画的な」勉強を乱す行為に当たります。「減らすからいいだろう」というものではありません。テスト直前に変更された塾生の中には、「範囲までの提出物仕上げに費やした私の時間を返して欲しい。」と怒っていた子もいました。当然です。

そもそも最初の範囲表を出す段階で変更の可能性がある範囲に設定すること自体が問題なのです。言い換えればその担当の先生を「計画性がない」と非難するべきです。

しかし、実はそれでもまだ問題があると思います。テスト前日にギリギリ範囲まで進めばよいというのはおかしいと思います。本当に「計画的な」試験勉強をさせたいならば、1週間前の範囲発表の時点で進んでいるところまでで範囲を決定すべきです。つまり課題の全体像を掴ませて、それに対してどのように時間を配分していくかを生徒に考えさせることが「計画的に」勉強させることだからです。

そもそも数学や理科の公式にしても、「前日に授業でやったからもう覚えたね」として試験に出すのはどうなのでしょう。塾で教えていて骨が折れるのは、授業で新しいことを教えることより、その知識や技術を実力として定着させることなのです。1ヶ月を要することはざらです。

普段から生徒に『計画的に』勉強せよ』と言うからには、先生自身が『計画的に』授業を行い、試験を作って欲しいものです。

高森中3
実力テストII

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
塾生平均	73.8	73.6	68.9	73.1	87.7	377.1
学年平均	53.6	42.9	39.4	43.0	53.8	233.5
平均点差	20.2	30.7	29.5	30.1	33.9	143.6